

SEF News Letter

Vol.45
(2018.4)

headline

- ✓ 平成28年度の一般廃棄物の排出および処理状況が発表
- ✓ 日本最大級の環境イベント「アースデイ東京2018」開催！
- ✓ 資源循環事業・森林再生事業報告とSEFからのお知らせ



公益財団法人
Save Earth Foundation

新年度を迎え、ニュースレターをリニューアルいたしました。より有益な情報とSEFの活動の状況を皆様にお届けできるよう、内容の充実を図ってまいります。引き続きご愛読ください。

トピックス 平成28年度の一般廃棄物及び処理状況が発表されました（環境省）

(主な結果 抜粋)

- ◆ ごみの総排出量は4,317万トン（前年比△81万トン）
- ◆ 1人1日当たりのごみ排出量は925グラム（前年比△14グラム）
- ◆ 最終処分量は398万トン（前年比△4.6%）
- ◆ ごみ焼却施設数は減少（前年度1,141施設 → 1,120施設）
- ◆ 発電設備を有するごみ焼却施設は全体の32.0%（前年比+1.5%）
- ◆ ごみ焼却施設における総発電電力量は増加
→8,762 GWh、約295万世帯分の年間電力使用量に相当
- ◆ リサイクル率は横ばい（前年度20.4% → 20.3%）
- ◆ 最終処分場の残余容量は18年間続けて減少（前年比△3.9%）
- ◆ ごみ処理事業経費は19,606億円（前年比+111億円）
→国民1人当たりで換算すると15,300円（前年比+100円）

環境省は3月27日、平成28年度における全国の一般廃棄物（ごみ及びし尿）の排出及び処理状況等の調査結果を取りまとめ、公表しました。

ごみ総排出量は平成23年度以降減少傾向が続いている一方で、ごみ処理事業経費は平成25年度から上昇傾向が続いています。平成24年度の17,885億円から1,610億円の増加となっており、特に収集運搬及び中間処理に係る委託費の増加が目立ちます。

詳しい内容は環境省ホームページに掲載されています。下記リンクからご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/105322.html>

トピックス 日本最大級の環境イベント「アースデイ東京2018」4月21日（土）・22日（日）に開催



今年で18回目を数え、毎年10万人を超える来場を記録する日本最大級の環境イベント「アースデイ東京」。今年も4月21日（土）・22日（日）の2日間にわたって開催されます。

代々木公園を舞台として、「地球のことを考え、行動する日」を合言葉に、安全安心にこだわるフードエリアや、様々な課題に取り組む団体のブース出展など、大人も子どもも楽しみながら学べるイベントです。

SEFも2015年からブースを出展しており、今年もワタミ(株)ブース内の一角をお借りして「子ども木エワークショップ」を出展いたします。

入場は無料。ご家族・お友達とご一緒に、お祭り気分を楽しみながらみんなで環境について考えてみませんか？詳しくは公式ホームページをご覧ください。<http://www.earthday-tokyo.org/>

排出事業者の立場から廃棄物・資源循環の課題に“本気”で向き合い、解決への道筋を導き出す場として、2017年6月より毎月1回開催してきた「ゼロエミッション研究会」。2017年度の締めくくりとして、3月13日に第10回勉強会を開催しました。

【渋谷・青山・表参道を舞台に“食品ロス問題”を啓発～新たな取組みを模索～】

前半では、毎週土日に青山の国連大学前で開催されている“ファーマーズマーケット”の運営に携わる北村真吾氏（(株)GOOD DEAL COMPANY）と竹田潤平氏（メディアサーフコミュニケーションズ(株)）から、東京の渋谷・青山エリアを舞台に、幅広い層に対して食品ロスの問題と解決に向けた取組を啓発するイベント「TOKYO EAT & THINK FESTIVAL（仮称）」のプレゼンテーションがありました。

意見交換のあと、参加事業者がどのような形でこのイベントと関わっていけるか、また食品ロス対策に向けた新たな取組みの可能性についてなど、今後の研究会で具体的に検討していこうとの結論に至りました。



【これからの日本の廃棄物・資源循環の課題を考える～4名の論客が討論～】

後半は、全10回の勉強会でファシリテーターを務めた志岐秀明氏（株式会社ガイアドリーム／SEF理事）と、勉強会の中で講師を務めた佐藤泉氏（弁護士）、百瀬則子氏（ユニー株式会社／SEF理事）、高橋巧一氏（株式会社日本フードエコロジーセンター／SEF顧問）に登壇いただき、「今後の日本の廃棄物・資源循環の問題を考える」と題した討論会を実施しました。

佐藤弁護士は「排出事業者の担当者が廃棄物・資源循環に関する新たな取組みに挑戦するためには、社外にネットワークを作り、いかに社内の論理をクリアしていくかが重要」と、個々の力が必要な時代に入ったという持論を展開。百瀬氏は「食品リサイクルループはリサイクラー、生産者やバイヤーとのパートナーシップが重要」と指摘、高橋氏は「リサイクラーは今後飼料化・堆肥化・エネルギー化のハイブリッド化の方向に進む」との見解を示しました。志岐氏からは「排出者側の分別や保管のレベルアップが重要」と指摘、加えて「リサイクルのポイントは売れる製品を作ることであり、処理の観点ではなく生産の観点で取組むことが重要」と述べました。



2018年度はより皆様の期待に応えるべく実践的な内容へとシフトし、定期的で開催してまいります。今後の開催予定等はホームページやニュースレター等でご案内しますので、ご期待ください。

森林再生事業 活動報告

【日向の森（千葉県山武市）】春の親子森林体験イベントを開催

春分の日（3月21日（水））に予定していた「春の森を楽しもう！親子で森林体験in日向の森」。残念ながら荒天のため中止となりましたが、参加者からの希望が多く、日程を変更して24日（土）に開催し、スタッフを含め27名で春の森を楽しみました。



まずは間伐体験。力を合わせてロープを引いて倒したあと、年輪を数えたり枝払いをしているうちに、緊張していた子どもたちの目も徐々に輝き始めます。

森歩きではビンゴカードを使って自然観察を楽しんだ後、森のクラフトに挑戦。自然素材を使って動物の顔を作りながら、間伐材の薪で焼いたピザとキッシュを頬張りました。

次回は9月、秋分の日前後を予定しています。今回残念ながらご参加いただけなかった方も、次回イベントをぜひ楽しみにお待ちください。

※このイベントは（独）国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて行いました。

森林再生事業 活動報告

【臼杵の森（大分県臼杵市）】ヤマザクラの植樹活動を実施

臼杵の森の保全活動パートナー「(株)ワタミファーム&エナジー株臼杵事業所（以下、WF&E）」との共催で、臼杵市役所職員、SEFサポーターなど計35名でヤマザクラの植樹を行いました。



ヤマザクラの植樹は昨年に続き2度目ということもあり、手際よく順調に作業を進めることができました。途中、昨年植樹したヤマザクラがしっかりと育っていることを確認できました。およそ2時間で70本の苗木の植樹を完了し、昨年植樹した分と合わせて140本。将来、この桜並木が地域の皆様の憩いの場となるよう、大切に育てていきたいと思えます。

※このヤマザクラの苗木は、WF&Eが（公財）日本さくらの会の「平成29年度宝くじ桜寄贈事業」に応募し採択され、寄贈されたものです。

4月・5月 森林保全活動のお知らせ ★★★★ボランティア募集中！★★★★



SEFでは、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを随時募集しています。

千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日（東京駅から送迎いたします！）に定例活動を行っているほか、兵庫県丹波市、大分県臼杵市でも定期的に実施しています。

直近の活動は下記を予定していますので、ぜひご参加ください。



<4月・5月の活動予定>

千葉県山武市

4月14日（土）、28日（土） | 5月12日（土）、26日（土）

兵庫県丹波市

4月21日（土） | 5月19日（土）

※日程は変更となる可能性があります。
最新の情報はホームページを参照ください。

ホームページはコチラをクリック…<https://goo.gl/uEt3CZ>



企業・団体向け森林体験プログラム 「森活」のご案内

SEFでは、企業や団体の皆様向けに「森活」をご提案しています。

私たちがご提案する「森活」とは、「森を活かす」こと。“森”での“活”動を通して、社会貢献活動の一環としての取組みに、またチームの関係性の基盤づくりや強化に、さらにはリラックス・リフレッシュのための福利厚生など、様々な効果につなげることができると考えています。

フィールドとしてご用意するのは日向の森（千葉県山武市）。都心からおよそ90分の好アクセスで、企業・団体の皆様の「森活」をお手伝いします。

皆様のご要望に応じたメニューをご提案しますので、まずはお気軽に事務局までお問い合わせください。

「森活」ってどんなことをするの？

季節に応じて、様々なプログラムをご用意しています。



植樹



下草刈り



間伐



ツル切り・枝打ち



薪割り



森林散策



クラフト